

報道関係者各位

日本経済新聞（7月15日付朝刊）の本紙1面に「往診PCR検査」に関する**記事が掲載されました。**

「ファストドクター株式会社（以下ファストドクター）」（本社：東京都新宿区 代表取締役／医師：菊池 亮、代表取締役：水野 敬志）の往診PCR検査が日本経済新聞（7月15日付朝刊）の本紙1面が掲載されました。

新型コロナウイルス感染の再拡大が続いています。PCR検査に対する需要がこれまで以上に高まる一方で、移動に困難を抱えるご高齢の方々など、通院が難しくPCR検査を受けられないケースの発生が懸念されています。

こうした状況に対応すべく、2020年8月より、ファストドクター提携医療機関に所属する往診医がPCR検査の必要があると判断した場合にのみ、患者さまのご自宅でPCR検査（行政検査）を実施します。

今回対象となるのは、新型コロナウイルスの感染者が特に多く、“エピセンター（震源地）”の発生が危惧されている東京23区にお住まいの皆さまです。具体的には夜間・休日の往診時、発熱やせきの症状等により新型コロナウイルスへの感染が疑われるケースなど、医師が必要と判断した場合に限って、医師や看護師が鼻の粘膜や唾液を検体として採取し、保健所に送付する仕組みです。検査結果は数日後、保健所から患者さまに直接伝えられ、陽性の場合の治療に関しては保健所の指示に従っていただきます。平日夜は15人から20人の医師が対応し、1日当たり最大10人程度の患者さまの検体採取に対応する計画です。

なお、検体採取の現場で医師・看護師がウイルスに感染するリスクを抑えるため、マスクやガウンなどの防具を常備するなど、感染予防策を徹底。医療機関に検体を輸送する際も、安全に配慮した専用の容器や車を使用します。また、感染の広がり次第では、今後、他地域への拡大も検討する方針です。ファストドクターの取り組みにご期待ください。援。同時に、かかりつけ医や救急医療の負担を減らし、良質な救急医療体制の創造を目指しています。

夜間・休日往診のファストドクターとは

ファストドクターは、夜間と休日に特化した医師による緊急度判定・救急往診支援サービスを事業の基軸とし、年間5万件の緊急度判定と年間18,000万件以上の往診支援を行っています。平成30年度中の救急車による救急出動件数は660万5,166件と過去最多を更新しました。しかし、搬送患者の傷病程度別内訳を見

てみると、軽症患者が49%と最も多くを占めています。このような背景には、高齢化による通院困難患者の増加、夜間休日におけるかかりつけ医機能の不足、患者の搬送手段の不足が挙げられます。

ファストドクターは、かかりつけ医と連携しながら、通院困難な患者への緊急度判定・救急往診を代行し、患者の在宅療養を支援。同時に、かかりつけ医や救急医療の負担を減らし、良質な救急医療体制の創造を目指しています。

URL : <https://fastdoctor.jp/>

【本件に関するお問合せ】

ファストドクター株式会社 広報室

■所在地：東京都新宿区内藤町 1-110 ガーデングロス新宿御苑 3F

■TEL：03-6273-2274

■E-Mail：info@fastdoctor.jp

■代表：菊池 亮（医師）、水野 敬志

■URL：<https://fastdoctor.jp/corporate/>